

佳作 私の心の居場所



アギナルド セリン パスクア
AGUINALDO CELINE PASCUA
国 籍 フィリピン
職 種 電子機器組立て
実習実施者 パナソニック レトロリックワークス紀南電工株式会社
監 理 団 体 ELC 事業協同組合

私はもともと、人前に出ることが得意ではありません。大勢の中にいると緊張してしまい、にぎやかな場所よりも、家で静かに過ごす時間を好みます。以前の私は、この静かな性格を「弱さ」だとも思っていました。

技能実習生として日本に来たとき、電車の中の静けさや、整った街並み、人々の落ち着いた様子に、自然と心が安らぎました。内向的な私にとって、日本は不思議と居心地のよい場所に感じられたのです。

日常の中で、心が温かくなる瞬間もありました。コンビニで年配の方がやさしく声をかけてくださったり、道ですれ違いざまに短い会話を交わしたりすることがあります。ほんの一言でも、そこには思いやりがあり、人のぬくもりを感じました。

私は電子機器の組み立てをしています。この仕事では、ほんの小さなミスが大きな問題につながるがあります。製品はお客様の生活の中で使われるため、責任の重さを日々感じながら作業をしています。

ある日、ラインで小さなミスが見つかりました。それまで流れていた機械の音が止まり、工場内の空気が一

瞬、静まり返りました。そのミスは私が直接起こしたものではありませんでしたが、同じラインで働く仲間として、強い不安を感じました。すぐに謝りたい気持ちはありましたが、日本語が十分ではなく、自分の思いをうまく言葉にできませんでした。

そのとき、フィリピン人のリーダーが私の気持ちをくみ取り、日本人の上司に伝えてくださいました。私は叱られる覚悟をしていましたが、上司やリーターは怒ることなく、同じミスを防ぐための方法を丁寧に説明してくださいました。そして、謝った私に「ありがとう」と言ってくださったのです。

仕事が終わるころ、同僚たちはいつものように「お疲れ様でした」と声をかけてくれました。その何気ない一言に、私は胸がいっぱいになりました。同じラインで働く仲間としての信頼と責任の重さを、改めて感じた瞬間でした。

日本で働く中で、私は一つの大切なことに気づきました。それは、人と人との信頼は、小さな思いやりや誠実な気持ちから生まれるということです。国や言葉が違って、人を思いやる心は、人と人をつなぐ力になるのだと思います。日本で出会った人たちのおかげで、私は少しずつ前に進む勇気をもらいました。これからは、私もその気持ちを大切にしながら、仕事に向き合っていきたいです。

だから今、胸を張って言えます。日本は、「私の心の居場所」です。